美しい着こなし 装う楽しみ

# 着物ことはじめ事典

監修／石田節子（衣裳らくや）
スタイリング／斉藤房江（衣裳らくや）

着物の基本から着付け、
季節の装い、お手入れまで、
これ一冊できちんとわかる

マイナビ

# 着物ことはじめ事典

美しい着こなし 装う楽しみ

監修／石田節子（衣裳らくや）
スタイリング／斉藤房江（衣裳らくや）

マイナビ

# 着心地も　気持ちも楽に
# 着物初め　してみませんか？

街で着物姿の女性がいると、つい見てしまうことがあるでしょう。華やかな振袖も若々しくてよいですが、日常着のようにあたりまえにサラリと着こなしている、そんな大人の女性の着物姿にもあこがれてしまいますね。ですが「着物って難しそう」「成人式に美容院で苦しく着付けられてよい印象がない」という方もいるでしょう。ただ、よく考えてみてください。つい数十年前まで、日本人は日常を着物で過ごしていたのです。着物で家事をし、着物で買い物に行き、着物でデートし、着物で仕事をしていました。着物が堅苦しいと感じるのは着付けが間違っているか、自分に合っていないからです。

本書では、昔ながらの「手結び」を、初心者でも結びやすいように「仮ひも」を使用した方法で紹介しています。身に付ける道具は極力少なくし、楽で動きやすいのが特徴です。着物＝苦しい、という方程式を打ち壊し、ふだん着として過ごしやすい、食べても苦しくない着付けです。着物は直線に仕立ててあり、それを丸みのある体に身に付けるのですからシワができたりおはしょりが斜めになるのは自然なこと。何度も着物を着て、自分らしい着姿を探していくこと

が、着物上級者への早道となります。着て行く機会がない……、などと考えず、食事へ、映画館へ、ショッピングへと普段の外出に着物で出かけ、まずは慣れることから初めましょう。

何度も着ることで自分らしい和装がつかめてくるのと同時に、どんな和装がすてきか、自分の好みかも分かってきます。さらに、街や着物店、映画やテレビなどで、着物姿の女性をよく観察するのも見る目を養うコツです。

日本には四季があります。周囲や自然と調和する和装は、より美しく見えるものです。四季折々の自然や行事を意識しながら装いにとり入れることは、着物の楽しみの一つといえるでしょう。一月、二月と、各月の装いの基本や楽しみを紹介しているので、参考にしてください。

そのほか、大人の女性として着物を装うために最低限知っておきたい、着物の種類やＴＰＯ、たたみ方や収納の仕方など、基本情報も初心者でも分かりやすいように紹介しています。

さあ、難しく考えず、まずは本書をめくってみてください。そして、着物を着てみましょう。着ないことには何も始まりません。着ることで着物を知り、ますます好きになっていくことでしょう。着物のすばらしさが、少しでも多くの方に伝わることを願っています。

# 着物の各部の名称

着物や帯には、パーツや着たときの部分によって、名称があります。ここでは、着物にお太鼓結びをしたときの名称を紹介します。購入するときや、着付けをするときに、各名称を覚えておくと便利です。

### 衿（えり）

必ず左が上に重なります。先端を衿先といいます。中心から左右の途中まで、かけ衿（共衿）がかけられ、着付けのときに、左右を確認するための目安になります。

### 帯の上線（おびのうわせん）

胴に巻いた帯の上の辺です。

### 前帯（まえおび）

胴に巻いた帯の前に見える部分です。

### 帯の下線（おびのしたせん）

胴に巻いた帯の下の辺です。

### 袖口（そでぐち）

手を出す部分のことです。

### 袖（そで）

袖全体を指します。

### 袂（たもと）

袖の下の部分です。

### 上前（うわまえ）

脇から上に重なる部分全体を指します。反対側を下前。両方を前身頃ともいいます。

### おはしょり

着丈を調整したときに出る部分。おはしょりの出ない着方を対丈（ついたけ）といいます。

### 脇線（わきせん）

前と後ろの身頃の合わせ目です。

### 褄（つま）

衿から下の縁です。衿下や立褄、褄下ともいいます。

### 着丈（きたけ）

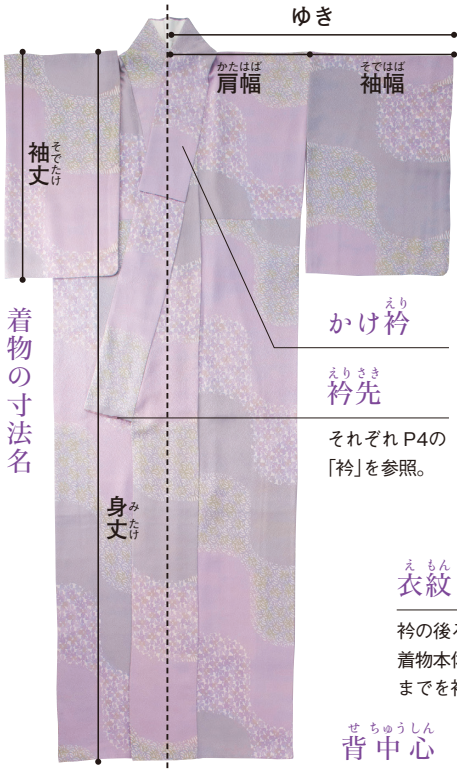
着物を着付けたときの寸法。身丈より、おはしょり分短くなります。

### おくみ線（おくみせん）

前身頃の生地の合わせ目のことです。

### すそ

着物の腰から下の部分で、着たときの下の縁をすそ線といいます。




## 着物の寸法名

### かけ衿

### 衿先

それぞれ P4の「衿」を参照。

### 背中心

左右の後ろ身頃の合わせ目で、背縫いとも呼ばれます。おはしょりより上は必ず体の中心にきます。

身丈…背縫いの長さ（繰り越しからすそまで）
袖丈…袖の肩山から袂までの長さ
肩幅…肩山線の背中心から袖の縫い目までの長さ
袖幅…袖と身頃の縫い目から袖口までの長さ
ゆき…肩幅と袖幅を合わせた長さ

### 肩山

前身頃と後ろ身頃の肩での境目のこと。折り筋があるまま着ます。

### 身八つ口

身頃の脇の開いている部分。男性の着物は開いていません。

### 胴裏

裏地のうち、八掛以外の部分を指します。

### 八掛

裾やすその縁、袖口など、着物を着たときの動きによって見える位置の裏地は、胴裏とは別布にしておしゃれを楽しみます。

### 衣紋

衿の後ろの部分を指します。着物本体の肩山から背中心までを衿肩あきといいます。

### 背中心

### お太鼓

一重太鼓や二重太鼓などをしたときの、後ろのふっくら作った四角部分です。上の線をお太鼓の山、下の線（たれとの境目）をお太鼓の下線といいます。

### たれ

帯結びをするときの形を作る側を指します。お太鼓結びでは、下にたれた部分のこと。先端をたれ先といいます。

### て先

帯の胴に巻く側の先端。全体をてといいます。

### 後ろ身頃

袖と衿以外で、後ろ側全体を指します。

# もくじ

はじめに……2
着物の各部の名称……4

## 第1章 ぐっと身近になる 着物の種類とTPO

和装の仕組みを知る……10
着物の種類で選ぶ……12
フォーマル着物……14
訪問着……14
色無地……16
色留袖／黒留袖……18
付け下げ／喪服……19
カジュアル着物……20
小紋……20
紬……22
御召／木綿……24
ウール／〈化繊〉……25

## 第2章 かんたん、苦しくない 自分でできる着付け

着付けを始める前に……28
着付けに必要な物チェックリスト……29
着る前にしておくこと……30
着物を着るまでの流れ……31
足袋・下着を付ける……32
足袋を履く……32
すそよけ、肌襦袢を着る……33
長襦袢を着る……34
着物の着付け……38

# おうちでできる着物の基本BOOK

帯を結ぶ……48
一重太鼓……48
二重太鼓……58
角出し……66
浴衣の着付け……72
半幅帯を結ぶ……80
文庫結び……80
貝の口……85
片流し……88
割り角出し……92
着崩れ直しのテクニック……96

## 第3章 季節の着物遊び 十二か月コーディネート

一月　お正月に、ハレの装い……104
二月　お茶会はマナーを知って……106
三月　ひな祭りをテーマに……108
四月　桜、さくら、サクラ……110
五月　暑くなってきたら単衣着物を……112
六月　雨の日も楽しく和装を……116
七月　見た目も着心地も涼しく……118
八月　夏祭りには大人の浴衣……120
九月　旅行に向くワードローブ……122
十月　秋を装いにとり入れて……124
十一月　羽織、コートのおしゃれ……126
十二月　パーティーは華やかに……128

## 第4章 そろえる楽しみを知る 着物・帯・小物について

購入スタイルについて……134
着物まわりの小物の選び方……136
帯……136
帯揚げ／帯締め・帯留め／帯飾り……137
長襦袢／半衿……138
履物／足袋／バッグ……139

アンティークの着物と小物……140
アンティークをとり入れるコツ……140
アンティークをすてきにリメイク……142
時代を超えて楽しめる柄……144

## 第5章 大切な着物のための手入れ・収納のコツ

着た後の手入れの基本……146
着物と帯の基本のたたみ方……148
夜着だたみ……148
本だたみ……149
長襦袢……150
名古屋帯……151
きれいに保存、見やすく収納……152
着物にまつわる用語集……154
着物の疑問解消Q&A……158

column

フォーマルからおしゃれ着まで楽しめる紋 26
よりすてきに見せる体型別着こなしのコツ 70
和装をもっとすてきに自分でできる着物ヘア 98
装いやTPOに合わせて選ぶ髪飾りいろいろ 102
暑い季節も和装を楽しむ六〜九月の着物と小物の素材 114
自分らしさを和装で表現しましょうイメージ別コーディネート 130

# 第1章

## ぐっと身近になる

# 着物の種類とTPO

着物は洋服と違い、格による形の変化がなく、
柄ゆきや素材によって格が決まります。
まずは基本的な着物の種類と格、TPOを覚えましょう。
フォーマルとカジュアルの違いが分かるようになれば、
着物がもっと身近に感じられるようになるはずです。
さあ、気軽に着物を楽しむための、第一歩の始まりです。

# 和装の仕組みを知る

和装に必要なアイテムには、おしゃれの目的だけではなく、
装いの格を調整したり、着付けの道具としての役割を担うものがあります。
各アイテムの特徴と役割を知ることで、上手に選べるようになります。

## 複数のアイテムから和装は仕上がる

洋服の場合、同じスカートやトップスでも、形や丈などさまざまなデザインがありますが、和装用のアイテムのほとんどは、ある程度形が決まっています。さらにフォーマルとカジュアルが明確に分かれていないため、多種多様な組み合わせが自由にできる洋服と違い、和装は一定のルールにしたがって、アイテムを組み合わせる必要があります。

和装においてのルールとは、それぞれのアイテムの格をそろえることです。洋装と比べるとフォーマルとカジュアルを分けやすい和装アイテムは、基本の装いとなる着物と帯の格に合わせるように組み合わせます。これにより、装いのフォーマル度が増したり、逆に少しカジュアルダウンさせたいときには着物と帯以外のアイテムのフォーマル度をやや下げるなど、格の調整をすることができるのです。

着たときに表に見えるため、とくに格を注意すべきアイテムは左ページで紹介しています。さらに、半衿をつける長襦袢（P138）や、その下に着る肌襦袢とすそよけ、着付けに使うひもやコーリンベルト、帯板、帯枕などの道具類（P29）を用意して、和装が仕上がります。それぞれ用途や意味を理解してそろえましょう。

## コーディネートの楽しみが和装の魅力

必要なアイテムが多い分、和装は色や柄の組み合わせひとつで全体の雰囲気ががらりと変わり、幅広いコーディネートを楽しむことができます。また洋装では考えられない色の組み合わせが意外と合うのも魅力。色のバリエーションも多く、たとえば同じ赤でも微妙に濃淡を変えた赤が和装の色には数多く存在するため、一概に赤色といってもいく通りもの色の組み合わせができるのです。

さらに和装アイテムには、おしゃれや格を決める目的だけではなく、着付けをする上で必要なものもあります。たとえば、帯締めは全体のコーディネートの中ではほんの挿し色にしかなりません。けれども帯結びを支える大事な役目もあります。このようにそれぞれのアイテムの役割を知ることで、着物の種類によってどのアイテムが必要になるかがわかるようになります。

最後に、四季のある日本ならではのおしゃれとして、和装での季節の表現について触れておきます。洋服は季節によって長袖や半袖などデザインが変わりますが、和装アイテムは生地の厚みや、裏地の有無などの違いはあっても、基本的な形は年間通して同じです。だからこそ和装には四季折々の柄を表したアイテムが多くあり、それらを組み合わせることで、日本人は古くから季節を愛でてきました。今でも和装で表現する季節は、情緒ある遊びとして親しまれ続けています。

# 和装をコーディネートするアイテム

和装はどんな仕組みになっているのでしょう。
着物を着たときに、表に見えてくるアイテムを紹介します。

## 半衿

長襦袢の衿にかぶせて縫い付け（P30参照）、着物の衿の内側に少し見せる衿です。おしゃれの目的以外に、着物の衿が皮脂などによって汚れるのを防ぐ役割もあります。写真はもっとも一般的な白半衿（P138参照）。

## 着物

和装の中でもっとも面積比率の大きいアイテムで、帯とともに和装コーディネートの基本となり、格を決めるポイントになります。身丈を身長ほどの長さで作り、帯の下でおはしょりをとって着ます。

## 帯揚げ

帯枕（P29参照）を隠したり、帯結びの形を支えるなど、おしゃれの目的以外に着付けをするうえでも重要な役割があります。着物や帯の格に合わせて使い分けます。（種類や選び方は P137参照）

## 帯

着物に次いで和装の核となるアイテムです。長さや幅、素材によって種類があり、着物の格や雰囲気によって選びます。結び方も、場面や好みによって変えられます。半幅帯やへこ帯は単体で締められますが、名古屋帯（写真上）や袋帯は帯揚げや帯締めが必要になります。（種類や選び方は P136参照）

## 帯締め

帯結びを支える重要なひもです。名古屋帯や袋帯の帯結びには必須で、締めやすさも大切。細いひもですが、コーディネートのポイントにもなります。着物や帯の格に合わせて使い分けます。（種類や選び方は P137参照）

## 帯留め

おもに帯締めよりも細い、二分ひもや三分ひもに通して使う装飾品。帯締めは通常は前で結びますが、帯留めを使う場合は、結び目を後ろに回して帯結びの中に隠します。（種類や選び方は P137参照）

## 履物

台がコルク製で、革や布でくるんでいるのが草履、木製の台や木製の歯が付いたものが下駄。いずれも和装用の履物です。あらたまった装いには必ず草履を履くのがルール。和の装いでも足元は重要です。（種類や選び方は P139参照）

## 足袋

洋装でいうくつ下。草履には必ず足袋を履きます。素材は木綿や伸縮性のある化繊が主流。足首の後ろ側に付いている、「こはぜ」という金具で留めます。

# 着物の種類で選ぶ

着物は種類が違ってもほとんど形が同じですが、どんなところを見ると違いが分かるのでしょうか。種類の見分け方のコツを紹介します。

## 「染め」と「織り」

着物には大きく分けて「染め」と「織り」があります。染めの着物は生糸を布に織ってから染めた後染めを基本とし、しなやかなやわらかさが特徴で「やわらかもの」とも呼ばれます。留袖や訪問着に代表され、小紋以外のフォーマル着物はおもに染めの着物です。一方、織りの着物は糸を染めてから布に織る先染めが基本で、おもに紬（つむぎ）を指します。張りがあるので着付けがしやすく、多くはカジュアル着物に分類されます。

帯にも染めと織りがありますが、格は真逆で、織り帯のほうが格上になることを覚えておきましょう。

## 柄ゆきによる種類

着物は模様の配置バランスによる柄ゆきによって、三種類に分けることができます。一つは絵羽柄（えばがら）と呼ばれる、縫い目で柄がつながっている柄ゆきで、留袖や訪問着など格の高

## 着物の種類早見表

表は上がフォーマル着物、下がカジュアル着物とし、それぞれ右から左に向かってカジュアルダウンしていくように並べています。TPOを見極める参考にしてください。喪服と化繊はこの中に組み込めない枠として、左に分けています。

### フォーマル着物

五つ紋で黒留袖と同格になり、三つ紋で準礼装、一つ紋で略礼装に。最近は三つ紋、一つ紋が主流。

**色留袖（いろとめそで）**
⇒ P18

**黒留袖（くろとめそで）**
⇒ P18

既婚女性の正礼装。もっとも正式な染め抜き日向五つ紋を入れる。合わせる小物もすべて最高格のものにするのがルール。

正礼装

よそゆき

### カジュアル着物

織りの着物で、小紋と紬の間の格に位置づけられる。染めの着物のようなやわらかな風合いがあり、無地感覚のものや細い縞柄は帯次第でよそゆきとして着られる。

**御召（おめし）**
⇒ P24

**小紋（こもん）**
⇒ P20

上下なく繰り返し柄を後染めした着物。古典柄の小紋は、あらたまったよそゆき着にもなる。

い礼装に用いられます。二つ目にどこから見ても柄の向きが上を向いている付け下げ柄、三つ目がプリントワンピースのように柄の向きが上下関係なく配された小紋柄です。この順にカジュアルダウンしていきます。

さらに、柄の種類によってもフォーマル度は左右されます。モダンな柄や幾何学柄よりも、伝統的な古典柄のほうが格は上です。重厚感があり、おめでたい柄が多く使われているため、結婚式や式典などあらたまった祝儀の席にふさわしいからだと考えられています。

## 素材による種類

着物の素材は、おもに正絹・木綿・ウール・化繊に分かれます。洋服でも同様ですが、正絹は格上とされ、その中でも礼装用になる染めの着物は、しなやかでまとったときに美しいドレープを生み、見た目にも上質感があります。紬や御召などの織りの着物はよそゆき用やおしゃれ着に。木綿やウールは普段着として扱います。化繊は柄ゆきにより格が決まるので、帯や小物は格に準じます。いろいろな着物を見たり触れたりして覚えていきましょう。

### その他の着物

黒留袖と同様、もっとも正式な染め抜きの日向五つ紋を必ず入れる。合わせる小物は黒で統一するのが一般的とされているが、地域によっては白色を用いる場合もある。

**喪服**
⇒ P19

ポリエステルなど化学繊維の着物。柄や織り方で格が変わるのが特徴。訪問着や色無地は正絹と変わらず礼装として着ることができる。

**化繊**
⇒ P25

訪問着の略式として考案された略礼装。シンプルな柄付けが多いが、最近は縫い目で柄がつながるように計算されて染められた付け下げ訪問着もある。

**付け下げ**
⇒ P19

**色無地**
⇒ P16

紋の数によって格が変わり、五つ紋で留袖に次ぐ礼装に、三つ紋で準礼装、一つ紋で略礼装に。弔事向きの地紋と色で色喪服にもなる。

留袖に次ぐ準礼装。縫い目で柄がつながる絵羽柄で、肩や袖にも柄が入る。結婚披露宴のお呼ばれや、パーティーなど社交向き。

**訪問着**
⇒ P14

略礼装

普段着

**ウール**
⇒ P25

着物が日常着だった明治時代に、洋服のウール織機で織られた普段着。軽くて自宅で洗える手軽さから流行した。現在は絹混のシルクウールが主流になっている。

紬よりもカジュアルな普段着。気軽な友人とのお出かけなどに向く。無地感覚のものでも、ホテルなどあらたまった場所には不向き。

**木綿**
⇒ P24

**紬**
⇒ P22

絹糸を染めてから織る織りの着物。基本はカジュアルな普段着だが、作家ものや希少価値の高い素材、無地感覚の柄のものは帯次第でよそゆき着になる。

# フォーマル着物

結婚式や式典など、あらたまった場面にはフォーマルな着物を着用します。格上なものから、留袖、訪問着、色無地、付け下げとなりますが、紋の数や合わせる帯によっても格は上下します。

## 訪問着（ほうもんぎ）

おしゃれの要素が強い、絵羽柄（えばがら）の着物

### 留袖に次ぐ準礼装 昨今では無紋が一般的

社交着として誕生した訪問着は、留袖に次ぐ準礼装として、式典からパーティー、結婚式など、幅広いフォーマルシーンで着られます。古典からモダンまで柄が豊富で、ほかの礼装に比べるとおしゃれの要素が強く、未婚、既婚を問わずに着ることができます。留袖と同様に、縫い目で柄がつながるように染め

### 結婚式や入学式には古典柄の淡色を

古典柄の淡く上品な色合いの訪問着は、結婚式や子どもの卒業・入学式にふさわしい品格のある装いです。おめでたいとされる七宝など吉祥文様の帯を合わせることで、よりお祝いの雰囲気が強調されます。

### 訪問着の装いルール

| | |
|---|---|
| 帯 | 金銀を多用した豪華な袋帯、またはしゃれ袋帯（P136参照） |
| 帯揚げ | 綸子や縮緬地で、淡い地色のもので品よくまとめる |
| 帯締め | 金糸銀糸を組んだ、太めの平組が基本 |
| 長襦袢 | 礼装用の白、または準・略礼装用の淡色のものを合わせる |
| 半衿 | 塩瀬の白または淡色、刺繍半衿 |
| 履物 | かかとがやや高めのエナメル製の草履が基本 |
| バッグ | 金糸銀糸を使用した布またはエナメル |
| その他 | 伊達衿は白または色を。貴石など礼装用の帯留めも使用可。扇子は祝儀用を左脇に挿す |